

市長記者会見記録

日時：2015年9月15日（火）午後2時～午後2時42分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：1 平成27年第（第44回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について（市民・こども局）

2 人と動物が共生する心豊かな最幸のまちかわさき推進プロジェクト「ひと・どうぶつMIRAIプロジェクト」をスタートします。（健康福祉局）

<内容>

（平成27年第（第44回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について）

司会： ただいまより、定例の市長記者会見を始めさせていただきます。

本日の議題は、平成27年度（第44回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について、人と動物が共生する心豊かな最幸のまちかわさき推進プロジェクト「ひと・どうぶつMIRAIプロジェクト」をスタートしますとなっております。

それでは、市長から初めに、平成27年度（第44回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について発表いたします。市長、お願いいたします。

市長： よろしく申し上げます。

それでは、平成27年度川崎市文化賞等の受賞者が決まりましたので発表させていただきます。

川崎市文化賞は、昭和47年度に第1回の贈呈式を行って以来、本年度で44回目を迎えます。本年度は、個人・団体合わせて26候補の中から川崎市文化賞等選考委員会において審議をしていただきまして、資料表紙にありますように7名の方々の受賞を決定いたしました。各賞の贈呈式は11月5日（木曜日）、川崎市国際交流センターで午後2時から行います。

次に、本年度受賞される方々について説明をさせていただきます。

資料の1ページをお開き願います。本年度の各賞受賞者の方々の一覧表でございます。

次に、個々の受賞者につきまして、その功績の概要を申し上げます。

初めに、川崎市文化賞でございます。2ページ目の大谷康子様でございますけれども、日本を代表するヴァイオリニストとして活躍され、今年デビュー40周年を迎えられました。川崎市市民文化大使として、音楽のまちかわさきの取組にも貢献されて

おります。

4ページの小原孝様でございますけれども、全国で活躍されているピアニストであられまして、今年でデビュー25周年を迎えられました。第一期から10年以上、川崎市市民文化大使としてもご活躍をいただいております。

6ページの長島保様でございますけれども、地域史研究家として、多摩川を中心に二ヶ領用水やアミガサ事件などの市の歴史研究やその継承に尽力をされているほか、多摩川流域の環境や文化の保全・継承に取り組まれております。

8ページの渡辺賢二様でございますけれども、法政大学第二高等学校の教員時代から、高校生や市民とともに陸軍登戸研究所の調査研究を行い、その実態を解明されました。現在は、明治大学平和教育登戸研究所資料館展示専門委員として、その歴史を伝えられておられます。

続きまして、社会功労賞でございます。10ページの新井靖子様でございますが、長年、市の障害児やその家族、担当する教員を支援する活動を牽引されてこられました。現在は、自ら設立に尽力されましたNPO法人わになろう会理事長を務められ、継続して障害者福祉に取り組まれています。

続きまして、アゼリア輝賞でございます。12ページの赤瀬紗也香様でございますが、中学生時代から全国大会で優勝されるなど、目覚ましい活躍をされている水泳選手です。昨年は、200メートル背泳ぎでアジア競技大会優勝、世界短水路選手権3位入賞されるなど、世界で活躍をされています。

次に、14ページの渡邊麗美様でございますけれども、昨年、開催されましたアジアパラ競技大会知的障害部門100メートル平泳ぎでアジア新記録で優勝。最近では、今月上旬に行われました2015ジャパンパラ水泳競技大会でも100メートルバタフライと100メートル平泳ぎに出場され、いずれも大会新記録で優勝されるなど、今後の活躍が期待される水泳選手です。

以上で説明を終わらせていただきます。

司会： ありがとうございます。

それでは、質疑応答に入ります。進行は幹事社さん、お願いいたします。

幹事社： どうもよろしく申し上げます。

まず、恒例の文化賞受賞ということで、今回も様々な顔ぶれで、中でも、活躍目覚ましい若手に贈られるアゼリア輝賞にくしくも水泳選手2人が選ばれたということがありますが、これは、しかもお一方はパラリンピックの選手であって、市長がご提唱なさっているパラムーブメントとか、あるいは2020年の東京五輪を見据えたとい

うような狙いというか、意味合いも込められているのでしょうか。

市長： いや、これは、様々な候補者の中から選考委員会の方々が決められる話でありますので、その理由というか、パラを意識してこういうふうなということではないかとは思いますが。

幹事社： 結果として、もちろん結果として選ばれたということだと思わすけれども、特にそのアゼリア輝賞のお二方を見て、市長はどのような感想をお持ちでしょうか。

市長： いや、ものすごくうれしいですね。特に今、ご指摘があった渡邊麗美さんは、私もお会いさせていただいて、その活躍というか、次の大会への闘志みたいなものを前も語っていただいたことがあったんですが、着実に成果を上げられているので、確実にパラリンピックではメダルに最も近い選手なんではないかと、私は個人的にも非常に期待しているところです。

幹事社： 一方で、文化賞、社会功労賞には、ベテランのそれぞれの分野で地道に活躍を続けられてきた方が受賞されています。こうした懐の様々な人材を抱えていらっしゃる事が川崎市の強みだと思うんですが、文化賞、社会功労賞の顔触れをご覧になって、改めて一言、お伺いさせていただきます。

市長： そうですね。特に音楽の関係、文化賞でいうと、大谷康子さんと小原孝さんは、市民文化大使として、これまでも様々な場面で活躍をしていただいて、川崎市民に音楽のすばらしさということと次世代につなぐというような活動で大変協力をいただいておりますので、そういう方が選ばれるということはすごくうれしいなと思っておりますし、市民の中で多くの指導の受けた皆さんがいらっしゃいますので、そういう方たちも大変喜ばれるのではないかなと思っています。

それから、長島さんや渡辺さんも、あるいは新井さん、社会功労賞の方もですが、本当に長年にわたって、地域に深く根差して地道な取組をされてきたということが評価されたんだと思います。こうした活動を引き続き、これを機にさらにご活躍をいただきたいなと思っています。

幹事社： 各社さん、いかがでしょうか。

司会： よろしいですか。では、本件につきましてはここで終了させていただきます。ありがとうございました。

（人と動物が共生する心豊かな最幸のまちかわさき推進プロジェクト「ひと・どうぶつMIRAIプロジェクト」をスタートします。）

司会： 続きまして、人と動物が共生する心豊かな最幸のまちかわさき推進プロジェクト「ひと・どうぶつMIRAIプロジェクト」をスタートしますについて発表いたします。それでは、市長、お願いいたします。

市長： 川崎市では、動物愛護ボランティア等、多様な主体と連携し、命を「まなぶ」、「つなぐ」、「まもる」をキーワードに取組を進め、動物を通じて命の大切さを伝えることで、「かわさきの人と動物の未来」である「人と動物が共生する心豊かな最幸のまちかわさき」の実現に向けて「ひと・どうぶつMIRAIプロジェクト」をスタートいたします。

命を「まなぶ」取組といたしましては、動物を通じて子どもたちに命の大切さや他者への思いやり等を伝え、共感する心や豊かな心を育てることを目的に、平成4年度から動物愛護センター等で実施している「いのちの教育」をさらに推進するため、外部有識者と意見交換会を平成27年10月から開始いたします。

また、市民の方々へ動物愛護に係る広報を実施するため、9月20日の日曜日に、宮前市民館及び区役所で動物愛護フェアを開催いたします。本年度は「動物がつなぐ、ひとのわ・地域のわ・かわさきのわ」をサブテーマに、公益社団法人川崎市獣医師会や動物愛護ボランティア、エンジン01文化戦略会議動物愛護委員会等の皆さんとともに、盲導犬・聴導犬のデモンストレーションや譲渡会、ペットの防災コーナーなど、たくさんのイベントやブース展示を行います。

命を「つなぐ」取組といたしましては、動物の殺処分削減に向け、川崎市獣医師会や動物愛護ボランティア等にご協力をいただき、動物愛護センターが保護したけがや病気の動物に対する治療強化や譲渡会の定期開催を行うとともに、「ミルク猫大作戦」といたしまして、生後間もない子猫については、ボランティアの方々にご協力をいただき、哺乳等、きめ細かいケアを引き続き実施してまいります。

命を「まもる」取組といたしましては、動物の防災対策として、飼い主の方々が災害時に適切な対応ができるよう、平常時から動物のしつけや健康管理、必要な物品の備蓄や動物との同行避難訓練など、飼い主の方々への啓発を実施してまいります。

これらの取組を積極的に進め、人と動物が共生する心豊かな最幸のまちかわさきに向け、動物愛護施策を一步前に、もっと先に進めてまいりたいと思います。

以上です。

司会： ありがとうございます。

それでは、質疑応答に入ります。進行は幹事社さん、お願いいたします。

幹事社： まず、このプロジェクトの位置づけなんですけれども、これまでも川崎市

は動物の殺処分削減ということで、昨年度とその前の年、2年連続で犬の殺処分のゼロを達成しています。猫も限りなく減らしています。こうした取組をずっと続けてい
らっしゃったということではあると思うんですが、今回、新たにプロジェクトとして、
これは期間限定で何かをやっていくということなのか、それとも未来に向けて、ずっ
とこうした取組を一層強化していくということなのか、このプロジェクトの位置づけ
について聞かせてください。

市長： 期間限定ということではなくて、これから外部の有識者の皆さんとともに、
いろんな形で「まなぶ」、「つなぐ」、「まもる」という取組を、それぞれいろんな事業
だとか啓発活動だとかを通じて進めていきたいと思っています。

幹事社： そうすると、いつから。それぞれの事業で、9月にフェアがあったりだど
か10月に意見交換会だったりとか、このプロジェクトの始点、始まりのところとい
うのはいつになるんですか。

生活衛生課長： 9月20日の動物愛護フェアを一応のキックオフという形で考えて
おります。

幹事社： そうすると、動物を愛して人と動物が共生していくような川崎市をつくら
せていこうということで、様々な取組を進めていく全体をプロジェクトというぐあいに
位置づけるんですね。

市長： そういうことです。

幹事社： 例えば、あまりなじまないかもしれないですけども、以前、市長は猫に
ついては限りなく殺処分ゼロにしていきたいという話をされていましたが、プロジェ
クトを始めるに当たって、こういうぐあいになったらいいなというような目標とい
うのはありますか。

市長： これは犬も猫もそうなんですけれども、やはり大切な命ですから、飼うとき
にしっかりと責任を持ってということはしっかり訴えていきたいと思えますし、子ど
もたちの教育のところから命の大切さを学ぶということもやっていかなくちゃいけ
ないと思います。それから、あるいは地域猫というか、猫のほうの殺処分をゼロにし
ていくという取組の中には、こういった地域猫で去勢手術だとかというのをしっかりや
っていくということが大事でありますので、ボランティアの皆さん方と一緒にやっ
ていくことと行政主導でやっていかなくちゃいけないことと、様々ありますので、関心
を持っていただいている方はたくさんいらっしゃいますので、そんな人たちといいア
イデアを出し合いながら、これからもこのプロジェクトを回していきたいなと思っ
ています。

幹事社： もう一つ、所管が健康福祉局になってはいますが、例えば子どもたちへの啓発であるとか、そういったところでは、教育委員会だとか、あるいは市民・こども局であるとか、こども本部であるとか、そういったところもかかわってくるのかなと思うんですけれども、プロジェクトの推進体制としては部局横断的なものなんですか。

生活衛生課長： まず、命を「まなぶ」ということで、子どもたちへの啓発ということで動物愛護センターが行っている「いのちの教室」等があるんですけれども、それをよりレベルアップするために、意見交換会を外部有識者の方々と交えて実施いたします。その中のメンバーといたしまして、教育委員会ですとか市民・こども局さんとかにかかわっていただいて、市全体として取り組んでいこうと考えております。

幹事社： わかりました。各社さん、どうぞ。

記者： すいません。先ほどのお話にもあったんですけれども、猫という話になると避妊とかが結構大切なポイントになると思うんですが、それに対する補助と申しますか、何か現状と申しますか、どうなっていて、今後どうしていきたいというお考えは特にはありますか。

市長： 補助は今、現時点でもしておりますが、この補助の額だとか仕方について、あるいはどういった主体でやっていくかということも、いろんなご意見をいただいております。今後の検討課題の大きな一つだとは思っています。

補足で何かありますか。

生活衛生課長： とりあえず現在の補助金制度についてご説明いたしますけれども、1世帯当たり3頭まで、猫について不妊・去勢手術の補助金を出しております。雌については1頭当たり3,000円、雄については2,000円という形で補助金を出させていただきます。

記者： そうしますと、1世帯当たりとなると、例えばボランティアの方々がやるということになると、それは例外というか、やっぱり持ち込まれた方々の世帯で考えるのか、それとも。

生活衛生課長： はい。世帯という形です。個々のボランティアさんを1世帯ととらえています。

記者： 世帯で考える。

生活衛生課長： はい。

幹事社： すいません。念のため、確認ですけれども、犬の殺処分がゼロになったのは平成25年度と26年度ですよ。

市長： はい、そうです。

幹事社： 猫については、すいません、それぞれの殺処分の件数を教えていただけますでしょうか。

生活衛生課長： ちょっとお待ちください。平成26年度については、殺処分数が12頭です。平成25年度は54頭、ちなみに平成24年度は253頭となっております。

司会： ほかはよろしいですか。よろしいですか。

それでは、本件につきましては終了させていただきます。

《市政一般》

（安保法制について）

司会： 続きまして、市政一般となります。進行は幹事社さん、お願いいたします。

幹事社： 安保関連法案について質問いたします。週内にも成立する見通しが出てきたということで、それについて福田市長の受けとめをお聞かせいただければと。

市長： 非常に動きがあるというのは報道で知っている限りですので、それについて特に何かコメントがあるというわけではないんですが、一方で、なかなか国民的理解が進んでないというふうな現状は非常に憂いている一人であります。当初から、この安保法制の議論を始めるときにも、やっぱり国民にとって最も大切な法律の一つであると思うので、国民的議論をするべきだというふうなことを言ってきましたが、いまだになかなかその理解度が進まないというふうなことというのはちょっと残念だなというふうな感じがいたしますけれども。

（政府機関の移転について）

幹事社： ありがとうございます。

続きまして、もう一問。政府機関の移転の件で、ご当地と3県については該当しないと思うんですが、NEDOが、私の知る限り4県ないし5県からラブコールがあるようなんですけれども、非常にそういうのはありがたいのか、ちょっと困った移転なのか、またこれも、ちょっと市長の。

市長： そうですね。NEDOさんとは、川崎はもう様々な形で連携事業というのをやっていますので、これからもその関係というのは大切にしていきたいと思います。今回、検討されているNEDOさんの話というのは、NEDO全部という話じゃなくて、一部機能の移転誘致というふうなのがされていると承知していますので、大きな、

何か全てがなくなってしまうというふうなことではないと思いますので、そんなに危惧しているという状況ではありませんけれども。

幹事社： ありがとうございます。

(幸区幸町老人ホームの事故について)

幹事社： 老人ホームについてお伺いします。大変残念な事件がまた起きてしまったというか、起きていたことがわかりました。まず、1つの施設から、今のところ事件なのか事故なのか判然としませんが、川崎市内の老人ホームから二月の間に3人の方が転落して亡くなられている、まずこの現状をどういうぐあいに受けとめになられるのか。いかがでしょうか。

市長： まず、3名の方の尊い命が失われたという、このことに対して、心から亡くなられた方あるいはそのご家族に対してお悔やみを申し上げたいと思いますし、今、事件なのか事故なのかわからないというところで警察も調査に入っているということですので、その動向を見きわめていきたいと思いますが、しかし、この事態を重く受けとめて、具体的には明日ということになりますけれども、現地に、施設に立ち入って現状確認してくるということをしっかりやっていきたいと思っていますし、介護保険法に基づく指導なり処分なりということはこれから出てくるかもしれませんが、それに対してもしっかりと行っていきたいと思っています。

幹事社： 先だつての市議会の健康福祉委員会、臨時で開かれたものの中では、委員さんたちの中から、もう少し連携を深めていけば、今回、市側に過失はないと思うんですけれども、3件目があつたことを気づけたのではないかというようなご指摘があり、健康福祉局長は消防局などとの連携を検討していく、研究していく、そういったご趣旨のご答弁をされていたと思うんですが、警察との連携というと違う機関になるのでなかなか難しい部分もあると思うんですけれども、市役所の各実施機関で情報の共有というか、連携を強化していくというようなことのお考えはいかがでしょうか。

市長： おそらく、例えば消防、いわゆる救急の部分との連携というふうなのは関連づけというか、情報の共有ということは可能だと思っています。とにかく、2,000を超える施設から2,500件ぐらい、毎年、事故報告が上がってくるという中で、その担当がものすごい量の件数を抱えているという中で、しかし、このような転落事故というふうなのは、担当から聞く話、こんなことは通常、起こるような話ではないということでもありますから、それが2件、続いた時点で、これは何かあるんじゃないかともう少し深く、しっかり見ておく必要があつたのではないかと、結果論としては

思います。これもまた警察とのかかわり方になってくるとと思いますが、事件なのか事故なのかということで事故だというふうな話になってしまいますと、担当のほうからも、それは事故なんだろうなと思ってしまうというのも、私も理解はします。

幹事社： 市長のおっしゃるとおりで、事故か事件かの判断は市役所の権限を超えているので、とてもそれは難しいと思いますし、事故というぐあいな、警察が調べた上で事故という結果が市役所に上がってくるので、市としてはそれを信じるというか、疑うことはなかなか難しいと思います。その意味で、市側にはなかなか過失はないんだろうなと思うんですが、ただ、先ほど市長がおっしゃったように、なかなか起こり得ないことが短期間の間に2件、3件目は施設側の手違いで捕捉できなかったですけども、2件、相次いだというところでもう少し、例えば気づけていれば、たらればの話ですけども、3件目を防げたかもしれないということは思われると。

市長： いや、それは思います。率直に、可能性はあると思います。気づけていればですね。なかなか、繰り返しになってあれですけども、事件ではない、事故だと処理されている中で、さらに、いや、事件性があるかもしれないと疑うというのはかなり、相当難しいと思いますが、ただ、たらればの話に私もなってしまうんですが、結果だけ見てしまうと、こんな重大事件、事故というのはある話でないのが2回、続いていると、同じ施設でというふうなことには十分に疑いを持って当然かなと思う部分もございます。ですから、すごく難しいですね。

幹事社： そうですね。この間、担当部局の方は報道に対しても非常に真摯に、丁寧に説明してくださり、各事故事故で、その都度都度でしかるべく所要の対応をしていらっしゃるだったので、責めるつもりとか過失があったと言うつもりは全くないんですが、市長もおっしゃるように、そういうなかなか事件性を疑うのが難しい中で、しかし、やはり市民の命を守らなければならないという観点から連携を強化していくという方策を探っていくべきかと思うんですけども、例えば今後、どの部署との連携がいいのかわからないですが、連携を探っていくための話し合いの場というか、協議会のようなものがあるのかわからないですけども、そういったものを立ち上げてみようというふうなお考えはありますか。

市長： 今回の件は、詳細を確認しなくちゃいけないということから、まず始めなくちゃいけないと思いますので、その意味での第1回目の立ち入りというものを、明日、行くことにいたしますが、そこからまず始めようと思います。今後の連携の方向については、様々課題が見えてくるのではないかなと思いますし、いずれにしても、こういう都市部の、また繰り返しになりますけれども、2,000件を超える事業所がある

という中で、どうその監査、指導体制というものを構築するのかというのは、今までのふうにやっていると、どういうふうに強化すればそれが防げるのかというのはしっかり考えていかなくちやいけないなと思っています。ただ単純に人員を増やしてというふうなことにはならないと思いますから、処分等々のあり方というものもしっかり考えないといけないだろうと。

幹事社： ちなみに、市長がこの案件をご存じになったのは一連の報道が出た後という理解でよろしいでしょうか。

市長： ちょっと今、私、記憶が定かではありません。一報が入ったのが、担当のところ、わかりますかね。ちょっと確認します。ちょっと私もどっちが先だったのかなという。

幹事社： ただ、それぐらい、あまりタイムラグがないぐらいでご把握なさったと。

市長： そうですね。はい。

幹事社： わかりました。各社さん、どうぞ。

記者： すいません。それに関連するかあれなんですけど、今日は老人の日で、市長のこれからのご予定の中にも老人福祉施設などを訪問するというものもあると思うんですけども、川崎市内の100歳以上の高齢者というのは今、100人ちょっとぐらいですかね。

市長： そうですね。たしか百数人ぐらいだったと思いますね。

記者： そうですよ。これは今、少ないんですか、多いんですか。もし少ないとしたら、何で少ないのかなって、何か理由みたいなのを考えられたことはあるんですかね。

市長： いや。データをしっかり調べてみますけれども、おそらく多いんじゃないかと思いますが。例えば、2年ぐらい前、去年だったかあれですけども、男性の長寿、市区町村別でいくと宮前区が全国で1位とか2位とかというあれですから、そういう意味では、健康寿命はともかく平均寿命は非常に高いので、それに伴って多いんじゃないかなとは推測します。

記者： わかりました。

それはそれだったらそれでいいんですけども、今回、先ほどの話にもあったんですが、転落死の話は賛否あって、それはいいんですけども、虐待という話も中にはあって、その虐待も、どうもここだけじゃなくて、関連している大阪のほうでもあったという話もあるんですけども、こういう報道が色々なってくると、ちょっと逆に懸念されるのは、今、ただでさえ老人ホームとか福祉関係の施設は人手が不足じゃな

いですか。そういった中で、市のほうでも福祉人材バンクとか、色々やっているんですけども、そういう厳しい中で、それが、こういうことがあると、ますますなり手がなくなっていってしまうというか、それで厳しくなって、下手すると、そうすると優秀な人材がますます集まらなくなって、同じような悪循環になっていくというようなことも何か想定されると思うんですけども、その辺、どうお考えでしょうか。

市長： こういった介護に携わられている方々は、私も多く友人を知っていますが、高齢者の自立を促したいという、本当にとつと意識を持って従事されている方たちがほぼ100%だと思っていますが、こういった例外的なことが起こってしまいますと、その影響というのは多分にあると思います。非常に危惧しています。かつ、真面目にやっている介護職の方々に対する見方というののもちょっとうがったものになるんじゃないかということ非常に心配しています。

記者： 施設によっては、本当にこれから、何か同じようにどこかに隠しカメラをご家族の方が設置したりして、ますます働きづらくなるとか、そんなことにならないように、市はこれからどんな感じで取り組んでいくと。

市長： 1つは、今回、同じ関連の運営事業者のところでは幾つか出てきているということですので、今回の立ち入り調査で、管理運営面でどうだったのかということを確認してまいりたいと思っています。

記者： わかりました。ありがとうございます。

記者： 老人ホームの件について、もう少し質問させてください。先ほど市長も、2件、続いた時点で深く、しっかりと見ておく必要があったのではないかとということもおっしゃっていましたが、担当課の方が再三、口頭で指導したにもかかわらず相次いだ、そしてそれをなかなか市も担当者も見つけることが、気づくことができなかった。まず、この事実について、市長としてはどのように考えられているか。

市長： この事実についてどう思うかと……。

記者： 事実というか、なかなかそれを見抜くことができなかった、もう少ししっかりと見ておく必要があったんじゃないかということですけども、それをなかなか見抜くことができなかったということについては、どう捉えていますでしょうか。

市長： 先ほどのご質問に答えたとおりでありますけれども、繰り返しになって恐縮ですが、やはり事件なのか事故なのかというところで、事故として警察も判断し、そして私たちも事故という判断をしてしまっているということで、先ほどの繰り返しになりますけれども、結局、結果的には3回ということになります、続けて起きているということになるわけですから、起こってからと、たればの話でありますけれど

も、もっと気づくべきであったのではないかと考えています。

記者： それを今後、気づけるようにする、再発防止も含めてですけれども、気づけるようにするためには、どんなことが考えられるとか、ございますでしょうか。

市長： これから管理運営体制について、しっかり見ていかなくちゃいけないということだと思っておりますが、しかし、全て日常業務的なものを見るということは事実上困難ですから、罰則を含めて、そのことをどういうふうに指導していくかというのは、体制のあり方も含めて、これからの検討課題と思っています。

記者： それは当該施設だけではなくて、ある施設全体という意味……。

市長： いや、今も全ての施設に対しての集団指導ということはやっています。それと、色々な通報なりが来たものに関しては、今、即座に見に行くということをやっておりますので、それをどうやって強化していくか、絞ってやっていくかということになっていくのだらうと思いますが、そのやり方については、今後の課題になってくるとは思っています。

記者： 関連でお伺いしたいのですが、今回の対応を、先日の課長のご説明を聞いている限りなんですけれども、1件目、2件目と報告があつて、即日といいますか、ほぼタイムラグなしで口頭で指導されているということで、指導自体は早いと思うんですけれども、一方で警察が事故と判断したという部分に関して、市として直接警察に伺うということではなくて、事業者側の報告でそのように確認したというご説明であつたかと思えます。

それは、万が一の場合ですけれども、事業者側が虚偽の報告をした場合に見抜くことができない確認の仕方であるように思うんです。それで、先ほど来、年間2,500を超える事故報告が上がってくるという中で、現場の方は、拝見する限りではものすごく忙しく業務をされていらっしゃると思います。先ほど、直ちに人員を増やしてということにはならないとおっしゃいましたが、その判断がいささか適切かどうか……。

市長： ごめんなさい、どこの判断ですか。

記者： 市長が先ほど、直ちに人員を増やすことにはならないとおっしゃったのですが、その前提が早過ぎるのかなという嫌いもあります。もう少し人員を増やして、一件一件細かく見れば、こういったことでも、警察に1本電話をすることもできたのではないかという見方もあると思いますが、初めから人員を増やすということに、ストレートにはならないとおっしゃるという……。

市長： なるほど。いわゆる私が申し上げているのは、これが10名体制だったら、20名体制に増やしたから、というような類いの話ではないという意味です。ですか

ら、ある意味、検証していく上で何ができ得るのかと、例えば先ほど申し上げた、消防あるいは救急隊との連絡、情報のあり方という、体制整備をしていく中で考えていく話であって、今やっていることを、例えば10倍、20倍にして監視していくということではないという意味でございます。失礼しました。

記者： いえ。重ねてのお伺いなのですが、先ほど質問の中でもう言ってしまった部分なのですが、警察がどう判断されているかというのを、施設者側からの報告を信じてというか、そのまま受けて確認をされている。それは適切であったかどうかというのは、ご認識はいかがでしょうか。

市長： 警察に確認するというのは、こちらからしていくのもそうだと思います。そうしたほうがよりよかったんだと思います。結果として変わらなかったとしても、言われるような虚偽というものは想定していないことですから、普通、虚偽の報告というのは考えられないですよ。ただ、主体的に情報を求めていくというのはあるべきだと思います。今後のあり方についても、その中で検討していきたいと思っています。

記者： あわせて、もう1点だけお伺いさせていただきます。市長のお耳に入ったのが今回の報道の直前といたしますか、タイムラグが、どちらが先かというお話でしたが、つまり3件目を把握されてからの報告ということになると思います。担当課長さんのお話ですと、1件、2件でも非常に不自然な事象であるというご認識であったにもかかわらず、2件の段階でご報告がないというのは、これは今考えると、もう少し情報を上に上げるべきではなかったかというお考えはないでしょうか。

市長： おそらく、もし担当のところにその認識があったら、私に入ってくる前に既に対応がとれていたんだと思います。ですから、まずその認識というのが、ある意味なかったということだと思います。いわゆる事故だという認識で済んでいたんだと思います。一件一件という形で、連続性を持つという認識ではなかったのではないかなと私は思います。

記者： ありがとうございます。

記者： すいません、繰り返しになっちゃうかもしれませんが、冒頭、転落死の関係について色々お話しされたと思うんですが、その施設で、今、転落以外にも虐待だとか、入浴中に窃盗だとか、今回、計6件と表現していますけれども、1つの施設で、半年強ぐらいでこれだけの事案が発生することについて、改めて市長はどのようにお考えでしょうか。

市長： いや、ちょっと異常だと思います。亡くなられているこの事態を今見ても、もう明らかに異常だと思います。そのことについて、やはり管理運営体制はどうなっ

ていたのかということをし、しっかり詳細にわたって確認していきたいと思っています。

記者： ありがとうございます。

幹事社： 確認ですが、明日、立入検査、監査に入られて、その結果を受けて今後の対応については、この施設に限らず全庁的に検証していくというような感じでしょうか。

市長： ただ、2つに分けなくちゃいけないと思います。この事案に関するこの詳細を調査して、それ以降の措置というものについて考えていくということと、指導監査体制がどうあるべきなのかということについては、関連していますけれども、2つは別軸にして考えていかななくちゃいけないと思っています。

司会： ほかはよろしいですか。

記者： 先ほど部署を越えた連携の強化という話もあったんですが、消防局や健康福祉局を取材していると、現時点ではなかなか難しいという声もありまして、例えば消防は救急搬送をする部署で、件数もすごく多いので、不自然を感じる事がなかなかできないという現状もあるんですが、そういった連携強化を今後考えていく上で、それをどう乗り越えるのかというところを、もう一回お願いします。

市長： まさに、それが果たしてできるのかということです。今ご指摘のとおり、救急との連携というのは考えられるけれども、実態としてそれが本当にうまくいくのかというのは、まさにこれからの課題だと思います。それこそ難しい課題かもしれませんが、警察と情報を共有していくということも、非常に大切なことだと思っています。

記者： ありがとうございます。

司会： ほかはどうでしょうか。よろしいですか。

それでは、以上をもちまして市長会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355